

トピックス 川上ダムを眺眺台！ 広報誌読者モニター施設見学会

令和元年10月5日土曜日、秋空が広がる三重県伊賀市で意見交換会を兼ねた「第5回広報誌読者モニター施設見学会」を開催し、モニター8名の皆様が全国より集合してくださいました。今回は、読者モニター施設見学会初の建設現場に潜入！川上ダムの技術や仕事を、皆さんと一緒に観てちょーだい(眺台)。



事業の目的と経緯

川上ダムは、「洪水調節」「新規利水」「流水の正常な機能維持」を目的とし、昭和56年に建設省(現国土交通省)により実施計画調査が開始され、昭和57年8月に水資源開発公団が事業継承し川上ダム調査所(現独立行政法人水資源機構川上ダム建設所)が発足、本年3月30日に本体基礎掘削※1を完了し、7月17日に減勢工※2コンクリート打設開始、9月20日に堤体コンクリート打設が開始され、令和4年度の完成を目指しています。

※1 本体基礎掘削とは、ダムを支える土台となる岩盤を露出させるため、河床やダムの側面を掘削し、土砂ややわらかい岩盤などを取り除くこと。

※2 減勢工とは、ダムの洪水吐きより水が放流される際、流下する水のエネルギーが非常に大きいため、そのまま流下すると、ダム下流の河道、人家、道路、橋梁などに被害が出る恐れがあり、これを防止するため、洪水吐の最下流部分に掛け、増大した流水エネルギーを弱める働きをする構造物。



ダムサイト位置	
■	右岸/三重県伊賀市阿保
■	左岸/三重県伊賀市青山羽根
■	型式/重力式コンクリートダム
■	堤高/84m(堤頂/EL.282.0m)
■	集水面積/約54km ²
■	湛水面積/約1.04km ²
■	総貯水容量/約31,000,000m ³
■	有効貯水容量/約29,200,000m ³
■	工期/昭和56年度から令和4年度(2022年度)までの予定

- 川上ダムカード
- オリジナルカード(基礎掘削Ver. 令和元年9月20日より配布)
- コンクリート材料となる骨材置場
- 骨材貯蔵ビン
- 骨材を運ぶベルトコンベア



概要説明



川上ダム建設所に到着後、中原副所長より、川上ダムの目的や、事業概要等について、パワーポイントで詳しく説明していただきました。モニターの皆さんも、真剣な眼差しです。この後の現場見学への期待がグングン高まります！



施設見学



マイクロバスに乗り込み、右岸天端展望所「WELCOME 川上ダム眺眺台」※3へGO！

打設現場を眺望できる「WELCOME 川上ダム眺眺台」は、屋上展望台、中はダムの目的や進捗状況等のパネル展示がある情報館で、時間内であればどなたでも自由に入場・見学が可能です(情報館は日曜・祝日のみ開館)。見学の次のお楽しみは、上流側(水が貯まる貯水池側)から、ダムを見学しました。この風景は、ダムが出来る前の今しか見ることの出来ない貴重な風景です。

※3 WELCOME 川上ダム眺眺台の赤字「ELCM」は、重力式コンクリートダムの合理的な建設方法として近年用いられるELCM工法を表しています。コンクリートを面状に打ち、あとから目地を作ることで、安全かつ迅速に工事できます。

- 眺眺台
- 右岸天端展望所からの景色
- 情報館内部の様子
- 上流側からの風景
- 濁水処理設備の見学
- 車窓から

最後に



- 意見交換会の様子
- 職員手作りのハンコ
- オリジナルデザイングッズ

今回ご参加いただきましたモニターの皆様、そして、日頃よりアンケートにご協力いただいております40名のモニターの皆様に、職員一同心から感謝申し上げます。皆様からいただいた貴重なご意見を胸に、広報誌の更なる充実と、これからの広報活動につなげ、水資源機構の仕事をより多くの方々に知っていただけるよう努めてまいります。

最後になりましたが、川上ダム建設所の仲間へありがとう。



川上ダム建設所HPIはコチラ
<https://www.water.go.jp/kansai/kawakami/index.htm>

